

2025年度 第3四半期

決算説明会

株式会社 **TBSホールディングス**

本日はお忙しい中、ご参加頂きまして
誠にありがとうございます。

只今より、
TBSホールディングス
「2025年度第3四半期決算」についての
説明会を開催いたします。

本日の出席者

代表取締役社長 CEO

阿部 龍二郎

専務取締役 CFO

玄馬 康志

取締役 CGO

中谷 弥生

司会：出水 麻衣 (TBSアナウンサー)

本日のスケジュール

決算サマリーとキャピタル・アロケーションの進捗 専務取締役 CFO 玄馬 康志

成長戦略の進捗
～Legendary Entertainmentとの
戦略的パートナーシップ締結～ 代表取締役社長 CEO 阿部 龍二郎

質疑応答

3

本日のスケジュールです。
まず、TBSグループの
「決算サマリーとキャピタル・アロケーション」について
専務取締役CFOの玄馬より、

「成長戦略の進捗
～レジェンダリー・エンタテインメントとの
戦略的パートナーシップ締結～」について
代表取締役社長CEOの阿部より、
ご説明いたします。

そのあと
皆様からのご質問に回答する時間をとっております。
グローバルビジネスを中心とした成長戦略を中心に、
この機会にぜひ、ご質問ください。

本日のスケジュール

決算サマリーとキャピタル・アロケーションの進捗 専務取締役 CFO 玄馬 康志

成長戦略の進捗
～Legendary Entertainmentと
戦略的パートナーシップ締結～ 代表取締役社長 CEO 阿部 龍二郎

質疑応答

決算サマリー

TBS

2025年度 第3四半期決算

- ・ 連結全体では、増収増益。第3四半期の連結売上高としては、過去最高を更新。
- ・ メディア・コンテンツ事業は、放送収入の増収、配信広告収入の伸長などにより、増収増益。
- ・ ライフスタイル事業は、売上高は、やる気スイッチグループでの生徒数の拡大に加え、スタイリングライフグループのPLAZAやBCLが好調だったものの、2024年度第1四半期末にライトアップショッピングクラブが連結範囲から外れた影響や、費用が増加したことなどにより、増収減益。
- ・ 不動産・その他事業は、売上高は前年並み。また、費用の増加により、減益。

連結	2024年度	2025年度	前年差	セグメント別	外部売上			営業利益		
	3Q	3Q			2024年度	2025年度	前年差	2024年度	2025年度	前年差
売上高	302,934	319,284	+16,349							
営業利益	22,135	24,633	+2,498	メディア・コンテンツ	220,191	235,212	+15,020	12,677	16,463	+3,785
経常利益	34,152	38,523	+4,370	ライフスタイル	70,011	71,391	+1,380	3,314	2,325	▲988
親会社株主に帰属する 四半期純利益	43,740	55,711	+11,970	不動産・その他	12,731	12,679	▲51	6,142	5,844	▲297
				調整額	-	-	-	0	▲0	▲1
				連結	302,934	319,284	+16,349	22,135	24,633	+2,498

5

(玄馬専務取締役CFO)

玄馬でございます、よろしくお願いいたします。

まず、2025年度第3四半期の連結決算ですが、売上高は3,192億円で163億円の増収。営業利益が246億円、24億円の増益でした。なお、第3四半期としては、売上高および各利益レベルで、ホールディングス化以降、過去最高となっています。

セグメント別に見ますと、メディア・コンテンツ事業セグメントは、TBSテレビの放送収入、配信広告収入が牽引して、増収増益。

ライフスタイル事業セグメントは、やる気スイッチグループの生徒数の伸長により増収ながら、人件費をはじめ、それ以上に費用が増加したため減益です。

不動産・その他事業セグメントは、前年並みでした。

詳細については、「決算資料」でご確認ください。

キャピタル・アロケーションの進捗

TBS

- 中間期決算時に更新したキャピタル・アロケーションに基づき、着実に計画を推進中。
- 成長投資においては、Legendary Entertainmentとの戦略的パートナーシップの締結や、スタイリングライフ・ホールディングス株式の100%取得（完全子会社化）を行うなど、事業の拡張に向けた投資を積極的に推進中。



続きまして、「キャピタル・アロケーション」の進捗です。

右上の成長投資ですが、開示していますように、第4四半期になって、スタイリングライフ・ホールディングスの完全子会社化、そしてこの後、説明いたします、レジェンダリー・エンタテインメントとの戦略的パートナーシップの締結により、総額686億円に更新しました

なお、現在、「中計2026」のアップデートを検討している中で、「キャピタル・アロケーション」も大幅な精査が必要と認識していますので、公表できるタイミングで、適切に開示いたします。

私からの説明は以上です。

本日のスケジュール

決算サマリーとキャピタル・アロケーションの進捗 専務取締役 CFO 玄馬 康志

成長戦略の進捗

～Legendary Entertainmentとの
戦略的パートナーシップ締結～

代表取締役社長 CEO 阿部 龍二郎

質疑応答

TBSグローバルビジネス元年

First year of TBS global business

2024-2026

グローバル販路の構築
世界のパートナーと
IP共同開発

VISION2030

流通網の拡大
コンテンツIP開発機能を実装
(収益基盤の確立)

beyond2030

TBSがグローバル
コンテンツカンパニーに

日本のメディアグループだったTBSは、
世界にTimeless Value「最高の時」を届ける
コンテンツグループに生まれ変わります。
世界のあらゆる人々に、感動を、笑いを。
2024年はTBSが創出するコンテンツIPが
世界に拡がるグローバルビジネス元年です。

8

(阿部代表取締役社長CEO)

阿部でございます。
よろしくお願いいたします。

先月発表いたしました、
世界的なスタジオであるレジェンダリー・エンタテインメントとの
戦略的パートナーシップ締結。

このTBSのグローバル戦略における新たな展開について、ご説明いたします。

TBSグループは、
「VISION2030」に伴う中期経営計画2026において、
国内の放送を中心としたメディアグループから、
世界に向けたコンテンツグループへと
進化することを目指しています。

2024年に「グローバルビジネス元年」を宣言して以降、
海外展開を加速させています。



Inspiring Global Love for Japan through Timeless Moments

9

TBSが世界で果たすべき使命、
グローバルビジネスのブランドパーパスがこちらです。

“Inspiring Global Love for Japan through Timeless Moments”
(インスパイアリング・グローバル・ラブ・フォー・ジャパン・
スルー・タイムレス・モーメンツ)。

心揺さぶる一瞬を世界中に届け、
時代を超えて残るその感動を「日本への愛」に変えていく。

これが、我々TBSが世界に挑む理由であり、原動力です。

TBSのグローバル戦略

IP

グローバル

教育

「グローバルビジネス元年」を経て、海外展開を一気に加速



海外ビジネス拠点 の新規設立・強化

- ・ 北米に「THE SEVEN US」
を新規設立
- ・ ネットワーク拡充
- ・ 投資機会の模索 等



パートナーシップ の強化

- ・ 海外展開に知見のある相手先
との関係強化
- ・ 共同制作
- ・ アライアンス 等



グローバルIPの 創出と拡張

- ・ 世界市場向けコンテンツIPの
創出・販売
- ・ 世界における日本のマンガ/
アニメへの“深い愛”に応える
新しい作品作り

2026年度に海外売上比率5%、
2030年度には10%を目標

10

この志を確かな現実にするために、
現在、我々の新たな武器として磨きをかけている
IPや教育事業に加えて、
今、アクセルを踏み込むグローバル戦略の柱は3点です。

1つ目は海外ビジネス拠点の強化です。
昨年10月、北米に「THE SEVEN US」を新設し、
ネットワークの拡充や投資機会を模索する基盤を構築しました。

2つ目は、パートナーシップの強化です。
CJ ENM（シージェイイーエヌエム）との共同開発など、
海外展開に知見のあるパートナーとの関係を強化しています。

3つ目は、グローバルIPの創出と拡張です。
世界における日本のマンガやアニメへの“深い愛”に
応えられるよう、SAND Bを中心にIP創出にも注力しています。

これらを統合し、目標である「2030年度の海外売上比率10%」を
達成するために打った、次なる一手が、こちらです。



LEGENDARY

ハリウッドの最高峰、
レジェンダリーとの戦略的パートナーシップの締結です。

Legendary Entertainmentとは



LEGENDARY

映画・テレビ・コミック等、多角的なメディア展開を行う

ハリウッドを拠点とする**メジャースタジオ**。

国際的な人気を誇るIPを多数保有し、高品質かつ商業価値の高い
コンテンツを世界中に提供し続けています。

《作品》

これまで『DUNE/デューン 砂の惑星』、モンスター・ヴァース (Monsterverse) シリーズ、『マイクラフト』などで世界的な超大作シリーズを構築・拡大。日本発IPも多く取り扱っており、開発中の作品も多数。



『DUNE/デューン 砂の惑星』



『マイクラフト』



モンスター・ヴァース シリーズ



『名探偵ピカチュウ』『ストリートファイター』

*2026年10月公開

12

レジェンダリーは、
「DUNE/デューン 砂の惑星」、「マイクラフト」、
「ゴジラ」をはじめとしたモンスターヴァースシリーズなど、

国際的な人気を誇る作品を数多く生み出してきた、
ハリウッドを拠点とするメジャースタジオです。

さらに「名探偵ピカチュウ」や
「ストリートファイター」を手がけるなど、

日本のIPや文化に対しても深いリスペクトを持ち、
それを世界中の人が楽しめるエンタメに
広げる力を持ったスタジオです。

Legendary Entertainmentの直近実績

米国アカデミー賞	エミー賞	ゴールデングローブ賞	英国アカデミー賞
受賞 15 回	受賞 1 回	受賞 5 回	受賞 14 回
ノミネート 53 回	ノミネート 14 回	ノミネート 22 回	ノミネート 56 回

映画部門の**累計世界興行収入は210億ドルを超え、**
これまで通算27作品が全米初登場1位を獲得。
数々の主要アワードを席卷する、
世界でもトップクラスの製作スタジオです。

13

もちろん定量的にも確かな実績があります。

映画部門の累計世界興行収入は210億ドルを超え、
これまで27作品が全米初登場1位を獲得。

アカデミー賞、エミー賞、ゴールデングローブ賞といった
主要アワードを席卷する世界でもトップクラスの製作スタジオです。

今回、本格的にハリウッドに挑戦するTBSにとっては、
非常に心強い、強力なパートナーになります。

Legendary Entertainmentとの戦略的パートナーシップ締結

2026/1/16
TBSはLegendary Entertainmentの
1億5,000万ドル相当の
持分を取得し（約237億4,350万円*）
戦略的パートナーシップを締結

*1ドル=158.29円換算、1/13時点



日本発のIPを原作とした作品を
複数本、継続的に
共同企画・開発していく

14

そのレジェンダリーに対し、
TBSは1億5000万ドル、日本円にして約237億円を出資し、
戦略的パートナーシップを締結しました。

日本市場における確固たる信頼と実績があるTBSと、
ハリウッドのコンテンツ開発、制作、マーケティングの
専門知識を持つレジェンダリーが手を組んで、
日本発のIPを原作とした作品を、
複数本・継続的に共同で企画・開発していきます。

TBS × THE SEVEN × LEGENDARYのワーキンググループ始動 《作品》

THE SEVEN

- ・TBS HDが100%出資して2022年に設立。
- ・ドラマや映画などの映像作品を軸に、**ハイエンドなコンテンツ**を企画開発・プロデュース。
- ・Netflixシリーズ『今際の国のアリス』（シーズン3 | 制作協力）や『**幽☆遊☆白書**』といった世界的ヒット作品がプロデューサー陣の代表作。



© 藤生羽呂・小学館/ROBOT



© Yoshiwa Togetsu | 1990年-1994年
原作/高岩義典「幽☆遊☆白書」
脚本監「ジャンプコミックス」刊



© 2023映画「愚か者の身分」製作委員会



26年1月、**日本発IPの共同企画・開発**を目的とした
TBS × THE SEVEN × LEGENDARYのワーキンググループが始動。

LEGENDARYとともにゼロベースから企画開発を行い、
日本の創造性とハリウッドの制作手法を融合させる
“**Cultural Translator (文化の翻訳者)**”
として、日本由来のコンテンツを世界に届けます。

そして、このプロジェクトには、
TBSグループの世界戦略スタジオである
「THE SEVEN」も中核として参画します。

「今際（いまわ）の国のアリス」、「幽☆遊☆白書」といった
世界的ヒット作を生み出してきたプロデューサー陣を中心に、
ハイエンドなコンテンツを制作してきた「THE SEVEN」。

TBSグループの総力を結集して、
日本の創造性とハリウッドの制作手法を融合させる
「カルチュラル トランスレーター＝文化の翻訳者」となり、
日本由来のコンテンツを世界に届けていきます。

既に、TBS、THE SEVEN、レジェンダリーの
3社によるワーキンググループが始動しており、
具体的なIPの議論で現場は早くも熱を帯びています。

日本発のIPで、世界に感動と喜びを届けるTBSの新たな挑戦に、
是非ご期待ください。

私からの説明は以上です。